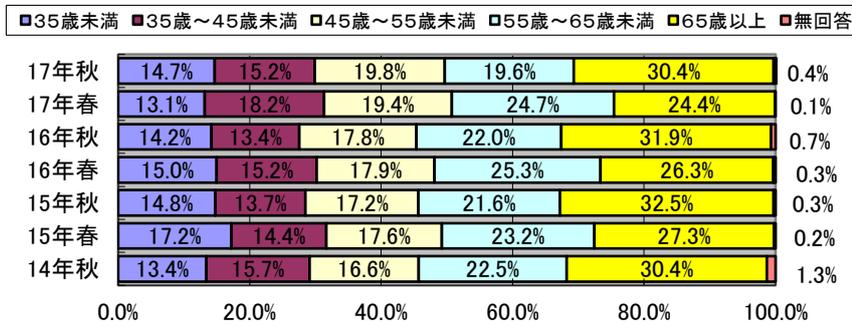


2017年秋 消費者の暮らし向きに関するアンケート 調査結果（サマリー）

調査名	2017年秋の「消費者の暮らし向きに関するアンケート」調査
調査時期	2017年9月
調査対象	県民生協組合員15万人の中から2,500人を無作為抽出(福井県の年齢・市町別構成比で)
調査者	公益社団法人 ふくい・暮らしの研究所
調査内容	消費者の暮らし向き、旅行、貯蓄、ボーナス、お中元・お歳暮、暮らし・食・環境・福祉等の意識調査 福井県の消費者の消費動向(消費者マインド)を把握するために半年に1回定期的に行っている調査で、今回で25回目となる
回答状況	配布数2,500枚、有効回答数771枚、回答率30.8%

年齢構成と平均年齢

前回の調査と比較し、65歳以上の占める割合が増えました。



平均年齢比較

14年春	52.5
14年秋	54.1
15年春	52.9
15年秋	54.3
16年春	53.3
16年秋	54.4
17年春	52.9
17年秋	53.6

平均年齢(歳)
 …35歳未満: 30、
 …35歳～45歳未満: 40
 …45歳～55歳未満: 50
 …55歳～65歳未満: 60
 …65歳以上: 70
 として平均値を算出

今後半年間の暮らし向きは、連続して上昇し過去最高値に。(図表1～3)

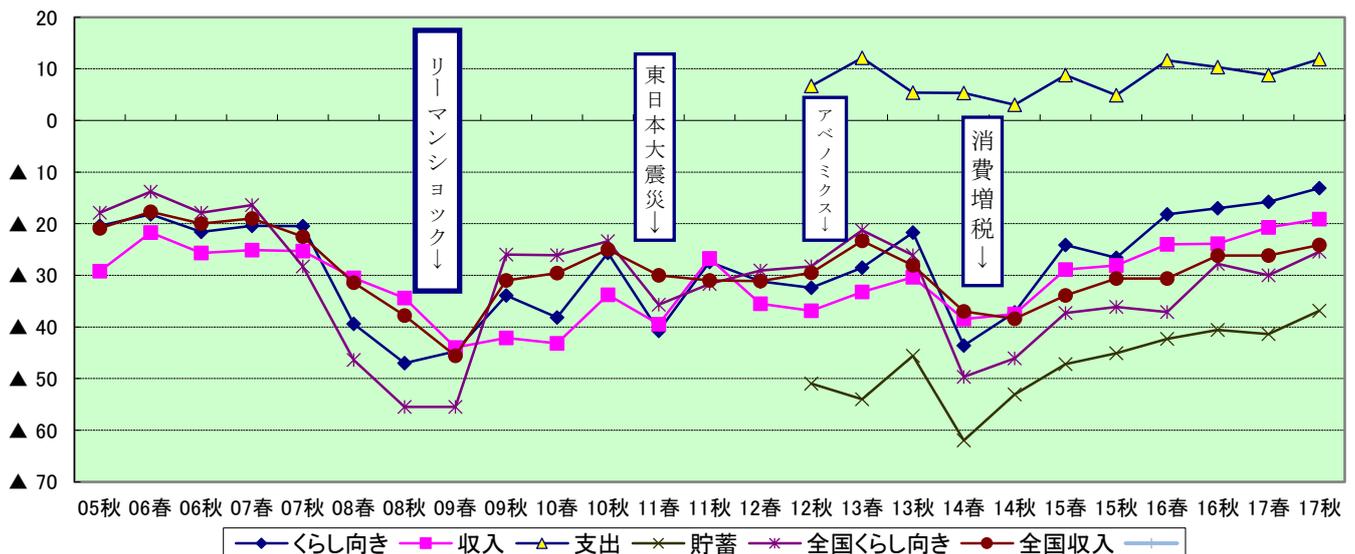
公益社団法人ふくい・暮らしの研究所の標記アンケート(2017年9月実施、有効回答数771)によると、今後半年間の「暮らし向き」について、D.I.値が過去最高値となりました。消費増税でいったん落ち込んだ後、16年春より回復傾向が見られ、以後連続して数値が上昇しています。「収入」「支出」「貯蓄」についても同様で、全ての項目で『やや悪くなる』が減るとい結果になりました。ただし、『良くなる』と『やや良くなる』が増えているわけではなく、『変わらない』が増えていることもその一因です。「過剰な期待は持たないが、現状は維持できそうだ」という見通しを持っていることがわかります。実質(現在)の暮らし向きについては、17年春に比べてほとんど変化ありません。

**D.I.値 : diffusion index(景気動向指数)の略語。{(良い+やや良い)-(悪い+やや悪い)}÷(無回答を除き変わらないを含めた合計) の比率を表します。

図表1 今後半年間の暮らし向き、収入、支出、貯蓄(比率) ※全国比率は、内閣府公示の17年9月「消費動向調査」より

	暮らし向き			収入			支出		貯蓄	
	17年春	17年秋	全国	17年春	17年秋	全国	17年春	17年秋	17年春	17年秋
良くなる(増える)	1.2%	1.4%	0.3%	1.0%	0.9%	0.3%	7.6%	6.9%	0.7%	0.5%
やや良くなる(やや増える)	4.9%	3.1%	4.5%	7.2%	5.3%	4.4%	21.9%	21.4%	6.5%	5.3%
変わらない	70.8%	76.9%	65.1%	62.5%	67.6%	66.5%	49.3%	54.5%	43.9%	50.8%
やや悪くなる(やや減る)	18.1%	13.0%	24.6%	20.9%	17.8%	21.4%	15.6%	11.4%	31.8%	25.6%
悪くなる(減る)	3.7%	4.5%	5.6%	8.0%	7.4%	7.4%	5.2%	5.1%	16.7%	16.9%
無回答	1.4%	1.0%		0.4%	1.0%		0.5%	0.8%	0.4%	0.9%
D. I. 値	▲ 15.8	▲ 13.1	▲ 25.4	▲ 20.7	▲ 19.1	▲ 24.1	8.8	11.9	▲ 41.4	▲ 36.9

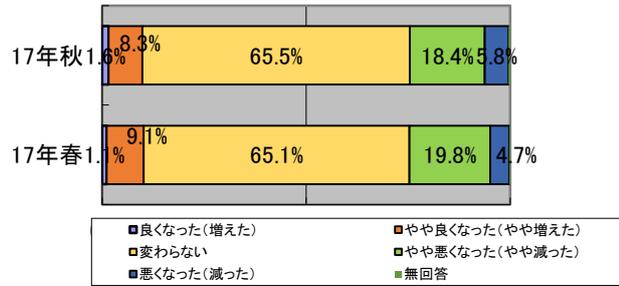
図表2 今後半年間の暮らし向き、収入、支出、貯蓄のD. I. 値経年推移



図表3① 実質のくらし向き、収入(%)

	実質のくらし向き	実質の収入
良くなった(増えた)	1.6%	0.9%
やや良くなった(やや増えた)	8.3%	11.4%
変わらない	65.5%	53.7%
やや悪くなった(やや減った)	18.4%	21.7%
悪くなった(減った)	5.8%	11.0%
無回答	0.4%	1.3%
D. I. 値	▲ 14.5	▲ 20.6

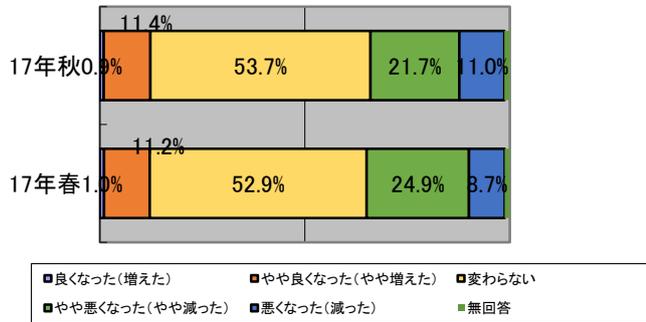
実質のくらし向き 半年前との比較



図表3 ② 実質のくらし向き、収入(%) 秋とのD. I. 値比較

くらし向き		収入	
17年春	17年秋	17年春	17年秋
▲ 14.3	▲ 14.5	▲ 21.8	▲ 20.6

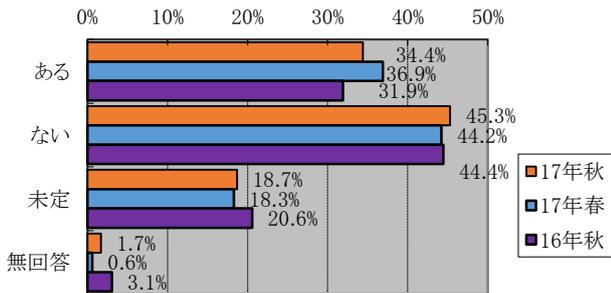
実質の収入 半年前との比較



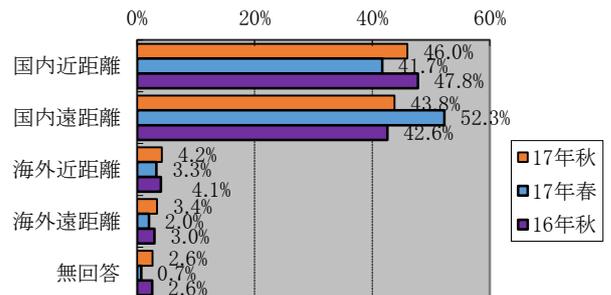
旅行への消費者マインドは1年前の同時期の状況を維持(図表4、5)

今後半年間に旅行予定が『ある』と答えた方は34.4%(17年春36.9%)となり、「旅行先」も、春に比べると近くで済ます傾向はありますが、1年前の同時期(秋)と比べると、ほとんど変化がなく、旅行への消費者マインドは維持、または僅かに

図表4 今後半年間の旅行予定(比率)



図表5 旅行先(比率)

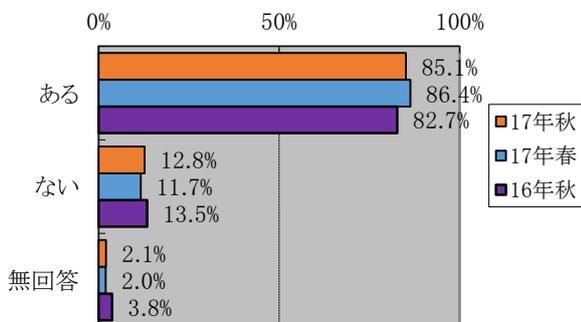


ボーナスの状況は現状維持も停滞気味。貯蓄が「ある」割合は85.1%(図表6、7、8、9)

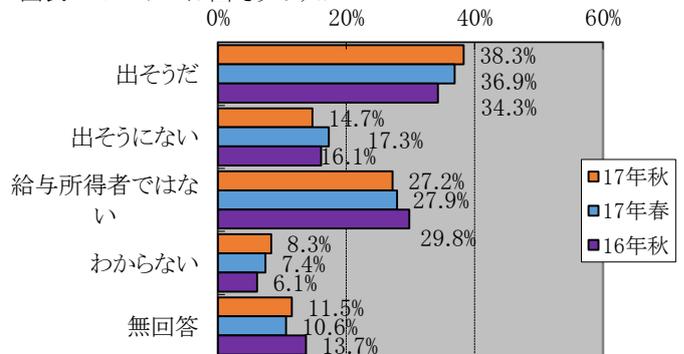
85.1%の人が、貯蓄が『ある』と回答しています(図表6)。年代別でも全ての年代で80%台で大きな差はありません。また、貯蓄額は全体の平均が943万円、1番多いのは『65歳以上』で、1,315万円でした。

冬のボーナスについては、『出そうだ』の割合は38.3%で、下がることなく維持していますが、ボーナスが増えるかどうか(予想額)についての数値を見ると、今回も『同じくらい』が多数となっています。使い道では『婦人服』『子ども服』『紳士服』『旅費』が上位で、この傾向は毎回変化がありません。

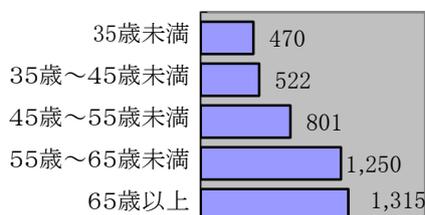
図表6 貯蓄がありますか



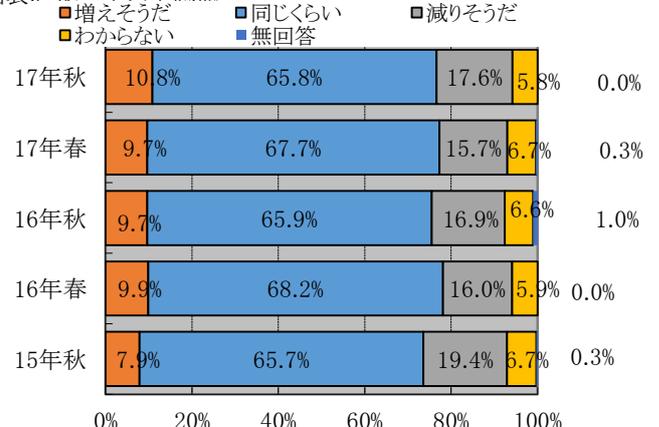
図表8 ボーナスは出そうですか



図表7 年代別 貯蓄額(平均額:単位は万円)



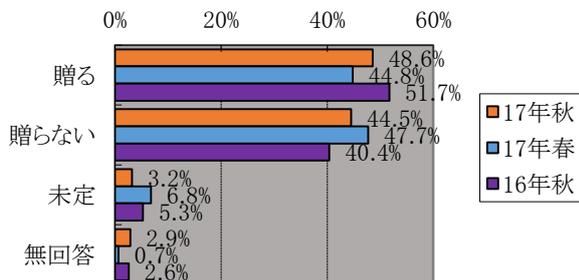
図表9 ボーナス予想額



お歳暮を贈る人は全体では5割を切るように。(図表9.10)

お歳暮を『贈る』割合は48.6%と、全体で5割を切るという結果です。贈答品選定で重視することのトップは『贈り先の趣味・嗜好に合うか』で、変わりません。高価格帯商品の平均価格は約6,800円、低価格商品の平均金額は約3,000円となりました。購入予定の商品の上位は、1位「海産物」・2位「加工肉」・3位「和洋菓子」で、昨秋の調査と同じです。

図表9 お歳暮は贈りますか



図表10 贈答品選定で重視すること

順位	重視すること
1	送り先の趣味・嗜好に合うか
2	地元福井の商品(ご当地商品)
3	金額ライン
4	季節感のある商品
5	安全・安心
6	送料が無料
7	日持ち
8	お中元の定番商品
9	国産品(メイドインジャパン)
10	販売店の信頼性
11	高級感・高品質感
12	メーカー/ブランドの知名度

子育てや教育に関わる困りごととは「乳幼児の食事作り」が1位。(図表11.12)

中学生以下の子どもがいる世帯に、子育てや教育に関わる生活の中の困りごとを聞きました。全体で1位は『乳幼児の食事作り』ですが、当然ながら、子どもの年齢によって順位は異なります。また、このテーマで自由に記述してもらったところ、「子どもの遊び場」に関する意見が多く、中でも「室内型」を望む声が目立ちます。

図表11 困りごと順位(全体)

順位	全体
1	乳幼児の食事作り
2	ストレス解消の場
3	しつけ
4	日常のお買物
5	子育てしながら働ける場
6	緊急時の子どもの一時預かり
7	掃除・洗濯などの家事
8	病気(救急時や感染症など)
9	教育や給食にかかる費用
10	親子でくつろげる場
11	親同士や地域との付き合い
12	児童クラブなど小学生の一時預かり
13	食物アレルギー
14	妊娠中の食事・食生活

図表11 困りごと順位(子どもの年齢別)

* 網掛け は0の項目

順位	妊娠中の家族がいる	乳児(0~1歳未満)	保育園・幼稚園児(未就学児)
1	掃除・洗濯などの家事	乳幼児の食事作り	乳幼児の食事作り
2	妊娠中の食事・食生活	日常のお買物	日常のお買物
3	乳幼児の食事作り	緊急時の子どもの一時預かり	子育てしながら働ける場
4	しつけ	掃除・洗濯などの家事	緊急時の子どもの一時預かり
5	日常のお買物	ストレス解消の場	病気(救急時や感染症など)
6	緊急時の子どもの一時預かり	子育てしながら働ける場	ストレス解消の場
7	教育や給食にかかる費用	親子でくつろげる場	しつけ
8	ストレス解消の場	しつけ	掃除・洗濯などの家事
9	児童クラブなど小学生の一時預かり	病気(救急時や感染症など)	親子でくつろげる場
10	食物アレルギー	教育や給食にかかる費用	教育や給食にかかる費用
11	親子でくつろげる場	親同士や地域との付き合い	親同士や地域との付き合い
12	病気(救急時や感染症など)	食物アレルギー	児童クラブなど小学生の一時預かり
13	子育てしながら働ける場	妊娠中の食事・食生活	食物アレルギー
14	親同士や地域との付き合い	児童クラブなど小学生の一時預かり	妊娠中の食事・食生活

順位	小学生	中学生
1	子育てしながら働ける場	教育や給食にかかる費用
2	教育や給食にかかる費用	しつけ
3	ストレス解消の場	ストレス解消の場
4	病気(救急時や感染症など)	掃除・洗濯などの家事
5	しつけ	病気(救急時や感染症など)
6	掃除・洗濯などの家事	子育てしながら働ける場
7	児童クラブなど小学生の一時預かり	緊急時の子どもの一時預かり
8	日常のお買物	日常のお買物
9	親子でくつろげる場	親子でくつろげる場
10	緊急時の子どもの一時預かり	親同士や地域との付き合い
11	乳幼児の食事作り	児童クラブなど小学生の一時預かり
12	親同士や地域との付き合い	食物アレルギー
13	食物アレルギー	妊娠中の食事・食生活
14	妊娠中の食事・食生活	乳幼児の食事作り

生活や食、環境、福祉に対する考え方

昨年度(16年秋)と比較して、あまり変化がありませんでした。

各項目ごとの合計点と平均点は図表12、各テーマの中で1番平均点が高い項目と低い項目は、図表13のとおりです。これも、昨年度と全く同じ結果となりました。

図表12 合計点と平均点

テーマ		総点数	平均点
ア)生活・くらし	A. 家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている	54,437	74.5
	B. 自分で自由に使える時間は、家で過ごすのが好きなほうだ	46,650	63.1
	C. 余暇は、家族サービスや旅行で過ごすことにしている	37,763	51.7
	D. 家族みんなが楽しむために、よく外食する	31,780	43.4
	E. 家計にゆとりがあった場合、消費するよりも貯金しておく	51,560	69.9
イ)食の安全・農業問題	A. 多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する	53,370	72.3
	B. 家計のため低価格の食品を探して購入する	40,900	55.6
	C. 多少値段が高くても地産地消を大切にする	43,645	59.2
	D. 輸入農産物は敬遠する	50,594	69.1
	E. 風評被害が心配だが、放射線量の高い産地の食品は手が出ない	45,174	61.4
ウ)災害防止、環境問題	A. 自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない	59,205	80.6
	B. 国は、災害防止のための補強工事や情報提供を、もっと行うべきだ	55,835	75.9
	C. 我が家の災害に対する備えは十分である	32,525	44.2
	D. 災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う	34,590	47.1
	E. 少々不便でも、積極的に省エネに協力したい	44,890	60.9
エ)エネルギー政策	A. 経済性を重視した、安定供給が可能なエネルギー政策を取るべきだ	46,060	63.4
	B. 生活に多少の不便があっても、安全性を重視したリスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ	48,780	66.8
	C. 太陽光や風力、水力等、再生可能な自然エネルギーを主力とするべきだ	50,635	69.4
	D. 安全性を確保した上で、問題がなければ原発の再稼働は仕方がない	36,290	49.5
	E. 今の電気料金は、高いと思う	47,530	64.3
オ)福祉、税金	A. 将来の社会福祉政策の充実のために、税負担が重くなっても仕方がない	38,913	53.3
	B. 国は、収入による格差を減らすよう、公平な税負担を求めるべきだ	50,297	69.3
	C. これ以上の税負担は耐えられない	53,610	73.2
	D. もっと、高齢化対策(年金制度等)の充実を図る必要がある	51,895	70.6
	E. もっと、少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある	54,045	73.8
カ)地域	A. 自治会、社会奉仕、避難訓練等地域の行事には、積極的に参加していきたい	46,575	63.5
	B. 地域の公民館や集会場、公園を、積極的に利用していきたい	44,045	60.1
	C. 地域の子供会や青年会、婦人会、老人会等に参加していきたい	40,690	55.4
	D. 自分の地域を良くするために、もっと、地域づくりやまちづくりに参加していきたい	41,353	56.3
	E. 自治会やPTA等地域の役員は、したくない	45,258	62.3

図表13 各テーマで1番得点が高い考え方・低い考え方

テーマ	平均点が1番高かった考え方	平均点	平均点が1番低かった考え方	平均点
ア	A. 家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている	74.5	D. 家族みんなが楽しむために、よく外食する	43.4
イ	A. 多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する	72.3	B. 家計のため低価格の食品を探して購入する	55.6
ウ	A. 自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない	80.6	C. 我が家の災害に対する備えは十分である	44.2
エ	C. 太陽光や風力、水力等、再生可能な自然エネルギーを主力とするべきだ	69.4	D. 安全性を確保した上で、問題がなければ原発の再稼働は仕方がない	49.5
オ	E. もっと、少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある	73.8	A. 将来の社会福祉政策の充実のために、税負担が重くなっても仕方がない	53.3
カ	A. 自治会、社会奉仕、避難訓練等地域の行事には、積極的に参加していきたい	63.5	C. 地域の子供会や青年会、婦人会、老人会等に参加していきたい	55.4